

<H14-6-A : 解説>

正角円錐図法は南北方向の幅が(ア : 狭く)東西方向の幅が(イ : 広い)地域に向いており、標準緯線が二本のとき、縮尺係数が内側で(ウ : 小さく)なり外側で(エ : 大きく)なる。

この投影法を特に(オ : 割円錐図法)と呼ぶことになっている。

解答 : 2

<H14-6-B : 解説>

地図編集において、基図の縮尺は作製地図のそれより大きくなければならない。

イ	小さく
---	-----

この編集方式において編集素図を縮小する前に記号等を拡大して編集する拡大方式がる。

エ	縮小方式
---	------

解答 : 2

<H14-6-C : 解説>

解答の方法としては、問題文にあるとおり 8mm 方眼を引いて増加分の形状を追ひマス目を数えるか、台形計算で面積算出を行う(スケール測定を 25000 倍すると実距離になる)。

なお、些末な部分は切り捨てたほうが誤差が少なくなる。

- ・ 8mm 四方の升目の個数 : $56 \text{ 個} \div 2.24 \text{ km}^2$
- ・ 台形計算からの算出 : $1/2 (1.93 \text{ km} + 2.65 \text{ km}) \times 1.00 \text{ km} = 2.29 \text{ km}^2$

解答 : 3

<H14-6-D : 解説>

1. 正しい。格子間隔を密にすると表現が詳細になる。
2. 誤り。格子間隔によっては元の地形図とは一致しない。なお、国土地理院が発表するジオイドモデルもこれと同様である。
3. 正しい。樹木による障害は別として、地形条件等による視通の有無を吟味することができる。
4. 正しい。問題文の通り。
5. 正しい。問題文の通り。

解答 : 2

平成 14 年度 測量士試験 午前「地図編集」 簡易解説